

双子葉植物合弁花類ミツガシワ科

アサザ



兼平瑞夫撮影

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

ヒツジグサのように水中の泥土に根を下ろし、水面に葉を浮かべて黄色い花を咲かせます。

国内の産地は次第に少なくなってきました。県内では小川原湖の岸辺にところどころに見ることができますが、他の地域では減少しています。かつては東津軽郡と西津軽郡が分布域に記録されていましたが、現在の状況は不明です。車力村の一部にも確認できているので、詳しく調べると他にも産地があることでしょう。

細井

双子葉植物合弁花類キョウチクトウ科

チョウジソウ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

細井幸兵衛撮影

北海道、本州、九州などの川岸、原野などの湿った場所に生育する多年草です。高さ60cm前後で、丸い茎を持ち葉は互生することが多いようですが、たまに一部が対生することもあります。葉の縁に鋸歯はなく、両端はとがります。5月～6月頃に、茎の先に、先端が5つに分かれ平らに開いた花を多数つけます。

本種の生育地も開発のため急速に減少しています。

齋藤

双子葉植物合弁花類キョウチクトウ科

バシクルモン

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



細井幸兵衛撮影

細井

この和名は、アイヌ語でバシクル（鴉）モン（草）の意味であると解説されています。

本州で初めて記録されたのは新潟県弥彦海岸ですが、同県内でほかに2か所の産地が分かった以外は、本県夏泊半島だけで、分布地が離れています。夏泊半島のもは近くに採石場がつくられ、絶滅しそうになりましたが、このごろやっと回復しかけてきたようです。

双子葉植物合弁花類ガガイモ科

スズサイコ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

根市

日当たりのよい草地に生える多年草。茎は細く、高さ40～100cm。7月頃鈴をぶら下げたように花を咲かせる目立たない植物です。場所によって花の色は黄褐色～紫褐色と変化があります。

全国的に分布し、県内全域に見られます。まれではないが数は少ないといった植物で、草地の減少に帰化植物との競合もあり、今では路傍、堤防、崖地周辺などの草地で一部自然度の高いところでしか見つかりません。

双子葉植物合弁花類ハナシノブ科

エゾハナシノブ



兼平瑞夫撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類

草丈70cmほどで、茎が中空の多年草です。葉は羽状に分かれ、小葉は11～25枚あります。

青森県と北海道だけに分布していて、県内では、向白神岳近くに見られます。

岩山の狭い草地に小群を作っていますが、きわめて厳しい生息環境にあります。

人が近づき難い、遠隔で険しい山岳地にあるため、絶滅が回避されているという感じがします。

生育している山全体の保全が望まれます。

原 子

双子葉植物合弁花類ムラサキ科

ムラサキ



根市益三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧I B類

山地の草原に生える多年草で、高さ30～60cm。全体に荒い毛が多く、花は7月に咲きます。

全国的に分布し、根は昔から紫根染めに用いられ各地で栽培が行われ、南部地方のものは「南部紫」として有名でした。日当たりの良い、やや乾燥した場所を好みます。県内では馬産地であった頃の草原に散在して目に触れましたが、草地の減少や帰化植物との競合などにより今ではまれにしか見られなくなっています。

根 市

双子葉植物合弁花類ムラサキ科

ツルカメバソウ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

根 市

林下に生える多年草。上部の葉腋からはう枝を出します。よく似ているタチカメバソウはブナ林下などに生え、はうことはありません。

本州中部以北に分布し、県内では八戸市以南に数か所の生育地があります。里山の範囲で、谷間の流れに近い辺りや田んぼの縁辺林下に少数ずつ見られます。田んぼに野生化するワスレナグサも似ていますが別属です。開発や環境変化により減少しつつあります。

双子葉植物合弁花類シソ科

カイジンドウ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



根市益三撮影

根 市

草原や林縁に生える多年草。高さ30～40cm。全体に白毛が多く、茎や葉は赤紫色を帯びます。花は6、7月に咲きます。

北海道・本州・九州に分布し、県内では全域に産しますが、もともと数の少なかった植物で、草地の減少に帰化植物との競合や開発が加わり、今ではまれにしか見られなくなっています。時に落葉広葉樹林の伐採跡に出現することもあります。それでもスギ植林地化で期待できません。

双子葉植物合弁花類シソ科

ムシャリンドウ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



木村啓撮影

草丈15～40cmの直立した多年草で、リンドウ科のリンドウの花を思わせませす。葉は対生し、茎は四角柱で頂に数個の紫色唇形花をつけます。

北海道から本州中部まで分布しています。県内では、各地の原野で普通に見られたのですが、近年は、ほとんど目にする事ができなくなりました。

生育場所である採草草原野が消滅したのと、採取された事が激減の原因のようです。

日が良く当たる原野の復活と、採取しない事が望まれます。

木村

双子葉植物合弁花類シソ科

キセワタ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

山地や丘陵地の草地に生える多年草で、茎は高さ60～100cm。花は8～9月に咲き紅紫色で、花冠の外面に密に白綿毛があるところから和名がきています。

全国的に分布し、県内にも点在していましたが、もともと数が少なく、偶然に出会うくらいの植物でした。同属のメハジキも同じような環境に生えますが、こちらはまだ眼に触れる機会があるので、付近に注意したいものです。草地の減少や帰化植物との競合により、今ではまれにしか見られなくなりました。

根市

双子葉植物合弁花類シソ科

ヒメハッカ

青森県：D

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



細井幸兵衛所蔵

太平洋側の湿地にまれに産しますが、県内の分布の詳細な状況は不明です。

ハッカより小さく、20~30cmで葉も小さく全縁で毛が少なく花序が短いです。

東通村小田野沢の路傍に生えていた小群は道路整備で失われました。これが唯一の記録です。

しかし、太平洋岩沿いには本種が生育可能な湿草地在るるので、これからみつかれる可能性が充分あります。

東通村原子力発電所予定地も分布可能な地域に入っていると思われます。

細井

双子葉植物合弁花類シソ科

ヤマジソ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

山地の日当たりのよい草地や裸地に生える小形の1年草。花は小さく、苞が大きくて下部のものでは萼より長くなるのが特徴です。

全国的に分布し、県内の山地に点在します。県南の階上岳では最近激減してしまいましたが、新設の遊歩道の傍らに出現しているのが見られました。八戸市近郊の造成地にも出現しています。しかし、今後帰化植物が進出してくれば本種のような在来の先駆植物も出現が難しくなってきます。

根市

双子葉植物合弁花類シソ科

エゾナミキソウ



根市益三撮影

根市

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

湿地に生える多年草で、高さ40～80cm。茎は4稜があり、葉の先はとがります。よく似ているナミキソウは葉の先が円くて海岸に生えます。

北海道・本州（青森・長野・岐阜）に分布し、県内では太平洋側に多いようです。湿原やハンノキ林下に生えますが、時に溜め池や水路のほとりに見られることもあります。かつての開田ブームと最近の六ヶ所・東通原子力関連海岸開発などで産地が次第に失われてきています。

双子葉植物合弁花類シソ科

テイネニガクサ



細井幸兵衛所蔵

細井

青森県：C

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

山地のブナ林やヒバ林下に生える。まれであるが県内では広い分布をしていると、標本産地から推測できます。

低地や低山地にはツルニガクサをよく見かけますが、これに似て萼に蜜腺毛がなく萼筒もより開いています。ツルニガクサのように屈毛がまったくなく葉柄の基部には開出毛が生えています。こういう植物は目立たないので見落とされやすいため、県内の記録は少ないが、注意すれば見つかる種類です。

双子葉植物合弁花類シソ科

エゾニガクサ



細井幸兵衛所蔵

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅰ類

県レッドデータブックには、青森のただ1点の標本によって基本母種のエゾニガクサと同定されたものを掲載しました。その後、県南浅水川の複数株を検討したところ、いずれも開出毛が多く長さ1~2mmのエゾニガクサより全体が大きく、開出毛の長さは短く1mm以下で少ないものでした。これは、山形県から変種のイヌニガクサとして発表されたものと符合します。

本州ではきわめてまれに産し、浅水川では土手に生えていました。

細井

双子葉植物合弁花類ゴマノハグサ科

マルバノサウトウガラシ



兼平瑞夫撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

全国的に分布する小形な植物で、花がないと見落としやすいですが、見慣れると花がなくても簡単に区別できます。

似た種類のサウトウガラシは、各地の湿地によく生えていて葉は細長い線状被針形で、先がとがります。本種は葉が卵円形なので、区別は簡単にできます。

県内では津軽地方で見つっていますが、岩手県の太平洋側にも分布していますので、本県の太平洋側にも分布の可能性があります。

細井

双子葉植物合弁花類ゴマノハグサ科

オニシオガマ

青森県：B

環境庁：該当なし



木村啓撮影

木村

草丈50cmほどの半寄生の多年草で、羽状の大きい葉を根際に数枚つけ、白毛を密生させます。直立した茎の上部に、淡紅色で唇形をした花を穂状に咲かせます。

本州の北陸から北の日本海側に分布しています。県内では岩崎村の河川上流部などに見られます。

近年、生育場所の環境変化が進み、個体数が激減しています。

生育場所全体の環境保全が必要です。

日本固有種で青森県が北限の植物です。

双子葉植物合弁花類ゴマノハグサ科

ビロードトラノオ

青森県：C

環境庁：該当なし



根市益三撮影

根市

山地の日当たりの岩場に生える多年草。葉の両面にビロード状に毛を密生します。同じ仲間にも毛の少ないエゾリトラノオ・ヤマルリトラノオ・エチゴトラノオなどがあります。

本州北・中部に分布し、県内では南郷村に産するだけです。エゾリトラノオなどと混同されていることもあって希少価値が下がっているようです。

人の立ち入り、開発など考えられない所に生育していますが、植生の遷移・自然災害による減少の心配があります。

双子葉植物合弁花類ゴマノハグサ科

シラガミクワガタ



兼平瑞夫撮影

青森県：B
環境庁：該当なし

白神山地と秋田県山本郡八森の標本を基に、新変種としてこの名前がつけられました。福島県から鳥取県までの高山や亜高山に分布しているミヤマクワガタよりも葉の裂れ込みが浅く、鋸歯が鈍頭な点が変わっている点で区別されます。

白神山地では岩石地や崩れた裸地に生えていますが量は多くなく、人目に付くところでは盗掘されるようになりました。

細井

双子葉植物合弁花類タヌキモ科

ムラサキミミカキグサ

青森県：B
環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

木村啓撮影

湿地に生える多年生の食虫植物で、地下茎に捕虫袋をつけます。地面から直立した2~10cmほどの花柄を伸ばし、先端に薄紫色の唇形花を咲かせます。

北海道から九州まで広く分布しています。県内では全域に見られましたが、近年、生育場所である湿地が急激に減少して、姿を見る事がまれになっています。

近似種のミミカキグサとの混生も見られます。

生育場所の湿地を保全し個体を見守る事が望まれます。

木村